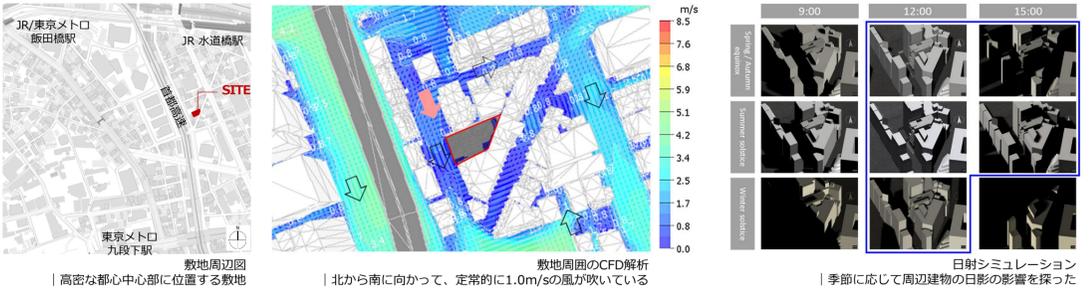


都市に潜む自然をまとう

中規模オフィスは普段人々にあまり意識されないが、その数の多さから都市景観を形成し、経済活動のインフラの一部を担っている。また、中規模オフィスと同様に、都市に潜む大きな自然も普段あまり意識されにくい。地面、空、風、動植物の広大なネットワークは、人工物の背後に隠れているが、私たちのアクティビティを支える大切な要素である。敷地境界を遥かに超えて関係性を構築する行為は、ワークプレイス同様に、道路、敷地、建物というヒエラルキーを超えて、現在の設計対象に新たな領域を生み出している。本計画では、自然光を取り込む半外部空間と、本社ビル内に要求されるワークスペースを、その関係性を構築しながら大きな空間を下に小さな空間を上にも構築することで、小部屋を含むすべてのワークスペースに立体的に光と風を取り込んだ。また、隣地境界から大きくセットバックした周囲の空間は、当オフィスのみならず、周囲の建物にも自然の光と風が通るスペースを提供している。

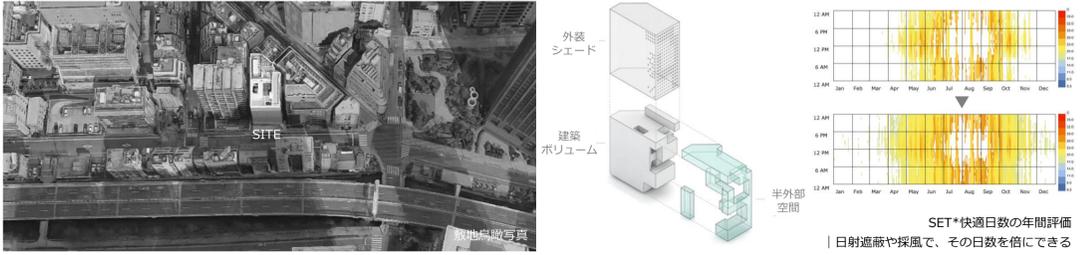
This is the rebuilding project of existing headquarters and the site is facing the front road along only one side and rest three sides are surrounded by adjacent site. This situation is really typical in the central of Tokyo. The direction which the site is facing the front road is west, so it is the most difficult condition to take in the exterior environment. It is difficult to realize both environment-consciousness and comfortableness with taking in natural daylight from only west direction.

In this project we extracted the nature which is very important element to support our activities and which is hiding in a city. By folding it around the workplace, we connected people and nature far beyond the site boundary and it is aimed to realize environment-consciousness and comfortableness.



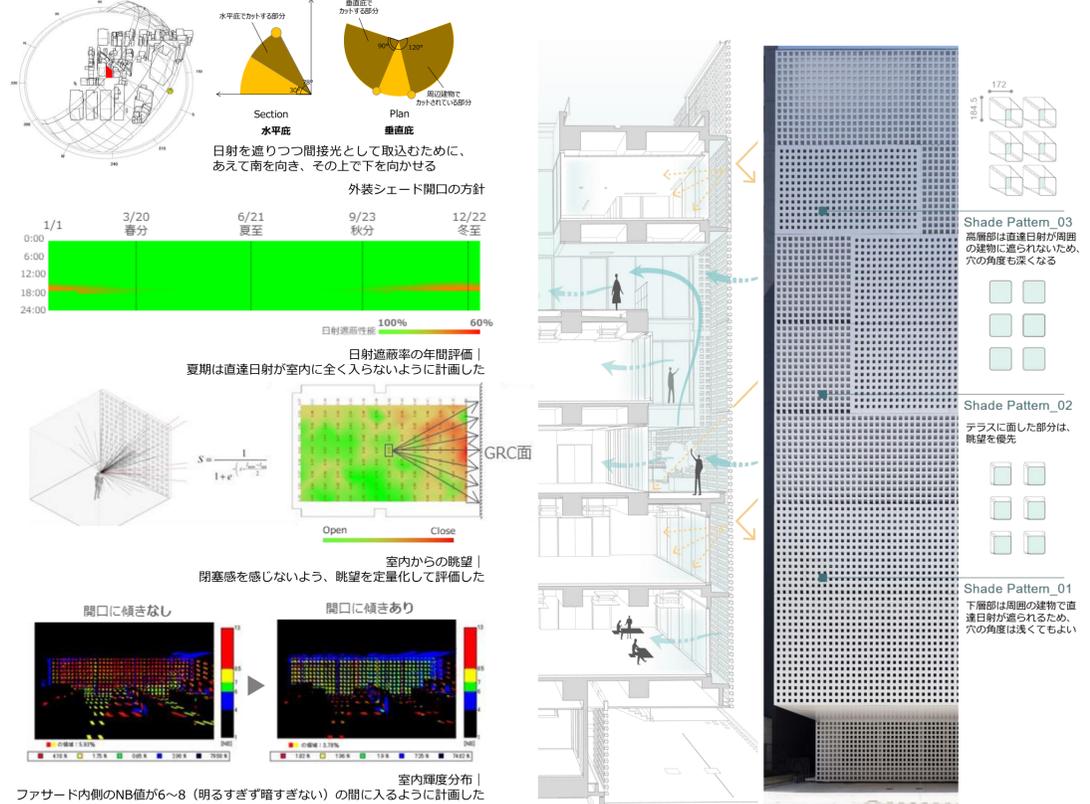
高密度都市中心部における41%の省エネ達成

光や風を適切に制御し室内に取り込むことで、東京の高密度な中心都市部でも冷暖房を行わずに快適な日数が約2倍とすることができる。本建物は、半外部空間で外部の自然を遮りつつ取り込むことで、最終的なエネルギー消費量を基準値の41%削減を達成した。



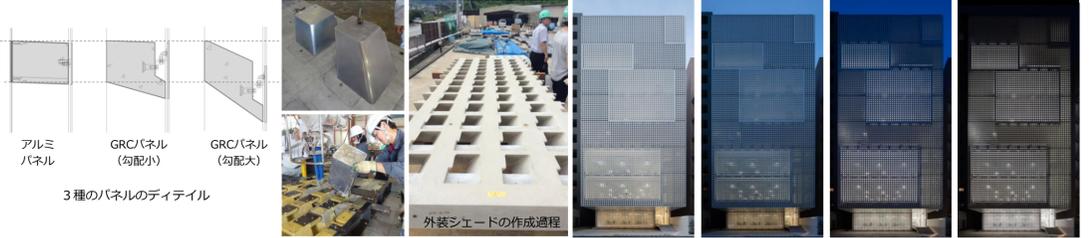
自然を遮りつつ取り込む外装シールド

ポラスな外装シールドが建物全体を包んでいる。シールドは、日射負荷と直達光のカット、反射光とそよ風の導入、眺望の調整を担っている。日射・風に対しては、実際の都市環境を反映させるために3Dスキャンを活用し、周辺も含めたシミュレーション及び実測を行った。開口の大きさや角度については、直達光の低減率、シールドの室内側の輝度分布、インテリアの開放感を定量化しながら、低層部、高層部、中間領域部分の3種類をそれぞれ導き出した。これにより、周囲の状況に反応しつつ場所によって表情を変えるファサードが生み出された。



外部の自然をモデレートする半外部空間

本計画では、半外部空間を一筆書きのように連続する空間とすることで、光だけでなく、そよ風が巡る中間領域を生み出した。中間領域は、外部環境を緩和しつつ取り込むことで、ワークスペースに適度な変化とリズムを与えるだけでなく、それ自体がワークプレイスとしての重要な役割を担う。室内側から外側に向かって狭くなる開口は、対面する集合住宅との見合いを解消し、夜はワークプレイスからの明かりを適度に遮ることで、職住が混在する地域に溶け込むオフィスとしている。

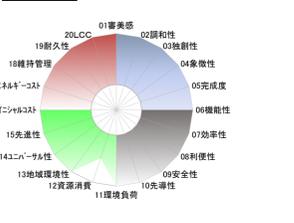


奥行きのある内と外

半外部空間は一筆書きで連続する空間とすることで、中間にはそよ風をワークプレイスに取り込む計画とした。スムーズなコミュニケーションのために設置された開放的な階段や、組織間の関係性に呼応したスキップフロアが建物全体を繋ぎ、光も風も、内と外が連続する奥行きのある空間を形成している。



評価表



建築概要

建物名 : カンダホールディングス本社
用途 : 事務所
建築主 : カンダホールディングス株式会社
所在地 : 東京都千代田区神田
設計施工 : 竹中工務店
敷地面積 : 499.38㎡
建築面積 : 334.64㎡
延床面積 : 2157.61㎡
階数 : B0, F8, P0
構造 : RC (免震)

評価項目	二特に重視したデザインのポイント	評価項目に対する設計者のデザイン意図 (従前のデザインと比較し、優れている部分、卓越している部分に関して具体的に記述してください)	自己評価															
A. 感性軸 (造形) Form	01 事業部	02 調和性	03 独創性	04 象徴性	05 完成度	06 機能性	07 効率性	08 利便性	09 安全性	10 先導性	11 環境負荷	12 資源消費	13 地域連携性	14 ニボルナリティ	15 先進性	16 コンフォート	17 柔軟性	18 維持管理
B. 機能軸 (技術) Technology	09 安全性	10 先導性	11 環境負荷	12 資源消費	13 地域連携性	14 ニボルナリティ	15 先進性	16 コンフォート	17 柔軟性	18 維持管理								
C. 社会軸 (環境) Environment	19 耐久性	20 LCC																
D. 経済軸 (LCC) Life Cycle Cost	01 事業部	02 調和性	03 独創性	04 象徴性	05 完成度	06 機能性	07 効率性	08 利便性	09 安全性	10 先導性	11 環境負荷	12 資源消費	13 地域連携性	14 ニボルナリティ	15 先進性	16 コンフォート	17 柔軟性	18 維持管理